

令和2年度第1回 芦屋市要支援児童等教育支援委員会 会議要旨

日 時	令和2年6月2日（月）13：30～14：30
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 河盛 重造（芦屋市医師会） 副委員長 浦山 佳代（芦屋市立打出浜小学校長） 委員 加藤 力敬（芦屋市医師会） 飯塚由美子（三田谷治療教育院） 柏原 由紀（芦屋市福祉部障害福祉課長） 茶嶋 奈美（芦屋市こども・健康部子育て施設担当主幹） 細井 洋海（芦屋市こども・健康部健康課長） 半田 滋人（兵庫県立芦屋特別支援学校長） 山中 朱美（芦屋市立宮川幼稚園長） 北野 章（芦屋市立精道中学校校長） 音居 則子（芦屋市立山手小学校教諭） 事務局 福岡 憲助（芦屋市教育長） 井岡 祥一（芦屋市教育委員会学校教育部長） 田淵 雅樹（芦屋市教育委員会学校教育部主幹） 澁谷 倫子（芦屋市教育委員会学校教育部主幹） 森 洋樹（芦屋市教育委員会学校教育課主査）
事務局	芦屋市教育委員会学校教育課
会議の公開	■ 非公開
傍聴者数	審議の内容に個人情報が含まれているため、非公開とする。

1 会議次第

- (1) 委嘱状交付式
- (2) 正副委員長選出
- (3) 教育委員会からの諮問
- (4) 審議
 - ① 報告事項
 - ア 令和元年度 就学指導の結果について
 - イ 令和元年度 教育相談等の状況について
 - ② 協議事項
 - ア 専門部の設置について
 - ・ 専門部員の指名について
 - ・ 専門部への付託事項について
 - イ 芦屋市要支援児童等教育支援委員会の流れについて
 - ・ 就学後の児童生徒の追跡調査に関すること
 - ・ 新就学予定幼児児童の就学に関すること
 - ・ 要支援児童等の教育的支援に関すること
 - ウ 調査書式について
- (5) その他

2 審議経過

(1) 報告事項について

- ①令和元年度芦屋市要支援児童等教育支援委員会の審議結果に基づく、今年度入学児童生徒の就学先等について、事務局から報告を行った。
- ②令和元年度に芦屋市特別支援教育センターと連携して行った教育相談等の状況について、事務局から報告を行った。

(2) 協議事項について

- ①専門部の設置について、次の点に関して協議を行った。
 - ア 専門部員の指名について
 - イ 専門部への付託事項について
- ②要支援児童等教育支援の流れについて、次の点に関して協議を行った。
 - ア 令和2年度入学児童・生徒の追跡調査について
 - イ 令和3年度 就学予定児童生徒の実態調査について
 - ウ その他の要支援児童等の教育支援に関する実態調査について
 - エ 調査書式について

(3) 今年度上記(1)(2)について事務局報告・提案を承認

[主な質疑]

- (1) 昨年度の教育支援委員会答申と就学先・進学先が違う児童生徒の保護者の意向はどうだったのか。
(保護者の意向について説明)
- (2) 教育相談等の件数については、前年度と比較してどうなっているのか。
 - ・芦屋市特別支援教育センターで行った教育相談等の件数は、H30年度に270件だったがR元年度は451件であった。合理的配慮コーディネーターの学校園への巡回訪問・支援を積極的に行ったことと、教育相談の件数が増えていることが主な理由である。
- (3) 調査様式については昨年度から変更があるか。
 - ・昨年度と同様のものを使用する予定である。

[意見]

- (1) 公立の幼稚園は学校教育課の管轄であるので比較的連携を取りやすいが、公立の保育所や私立の就学前施設とも積極的に連携を取り教育相談等につなげることが重要である。
- (2) コロナウイルス感染症拡大による学校園の臨時休業中の支援が必要な幼児児童生徒がどのような状況だったのかが気になっている。個に応じた対応を行っていく必要がある。